

せいかつ百科

資源物の 集団回収をしませんか

子ども会や町内会などの団体が資源物の回収を行った場合、回収した資源物の重さに応じて報奨金を交付しています。資源物の売却代金に報奨金をプラスして団体の活動資金として活用しませんか？

●報奨金の額●

1キログラムあたり3円。ただし、ビン類は1本あたり0.5キログラム換算（1キログラム未満は切り捨て）

●対象となる団体●

子ども会、自治会（町内会）、PTA、婦人会、スポーツ少年団など ※個人、事業所は対象外

●対象となる資源物●

新聞紙、雑誌類、段ボール、紙パック、その他紙、ビン類（繰り返し使えるもの）、アルミ缶、スチール缶

■問い合わせ・申請先＝本庁生活環境課生活衛生係（内線216）、各総合支所市民環境課



高齢者交通安全教室を開催しませんか

年々増加する高齢者の交通事故を防止するため、高齢者を対象とした交通安全教室を開催しています。

開催については、老人クラブなどの団体だけでなく、自治会の行事などでも受け付けますので、申込先までご連絡ください。

※申し込みは、先着順となります。ご希望の時間に添えない場合がありますのでご了承ください。



交通安全教室の様子

■問い合わせ・申込先＝本庁生活環境課生活安全係（内線218）

2月のごみの焼却ができません！
ごみの減量をお願いします

皆さま明るい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。県内初結成となる奥州市カラーガード隊「Oshuカラーガード隊」の発隊式が行われました。カラーガード隊は女性消防団員で構成され、消防行事で音楽隊やラッパ隊の演奏に合わせてフラッグ演技を披露します。笑顔いっぱいに活動いただき、消防団への女性や若者の加入促進につながることを期待します。

昨年7月から取り組んできた「ILCサポーターズ6万人署名運動」は、11月に達成し、東北ILC推進協議会へ署名を届けてまいりました。また、12月には、達増拓也岩手県知事や村井嘉浩宮城県知事らと共に、自民党の加藤勝信総務会長へILCの日本誘致を要望しました。これから



前向きな判断がなされることを期待します。

国道397号（仮称）新小谷木橋上部工架設工事の安全祈願祭が現地で行われ、工事の無事を願いました。現在、小谷木橋は老朽化が著しく、東日本大震災の余震では橋脚が傾き長期間全面通行止めになりました。地元住民にとっては悲願である新橋の完成予定は2020年です。

先月、越路、ひめかゆ、国見平のスキー場開きが行われ、シーズン真っただ中となっています。1月20日、2月17日の両日には、小学生以下のリフト1日券が半額になる「スキー子どもの日」や、19歳の人々がスマホなどで登録すれば今シーズンのリフト券が無料になる「雪マジ！19」など多彩なイベントでお待ちしております。ぜひ市内スキー場でお楽しみください。

今年の干支は亥です。亥の肉は万病を防ぐといわれ、無病息災の象徴とされています。皆さまが健康で元気に過ごされますことを願っています。

奥州市長 小沢昌記

We support the **ILC**

希望の ひかり

第62回

ILC（国際リニアコライダー）計画の各種最新情報をお届けします

最終期限は3月7日

日本政府内での検討が大詰めを迎える中、これまで前向きな意思表明をするよう求められてきた国際研究者組織は、最終期限を今年3月7日まで延長する方針を示しました。

国会議員によるリニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟（会長・河村建夫衆議院議員）と自民党の関係機関などで構成するILC誘致実現連絡協議会（代表・河村建夫衆議院議員）の合同総会が

昨年12月7日に開催され、国際研究者組織代表のリン・エバンズ氏が、「学術会議の検討が長引いているため、日本政府からの意思表明を3月7日の国際会議（東京）まで待」と発表しました。また、

同組織副代表の村山齊氏は、「欧州では今後10年間の素粒子物理学の戦略を練る議論が始まるが、日本でのILCに関する議論に進展が見られなければ、中国の加速器計画に進んでしまう可能性がある。」

ILCの建設には欧米アジアの参加が欠かせない。政治主導により、科学・行政・政治・外交をつなぎ、政府からの意思表明をお願いしたい」と呼び掛けました。

ILCの建設には欧米アジアの参加が欠かせない。政治主導により、科学・行政・政治・外交をつなぎ、政府からの意思表明をお願いしたい」と呼び掛けました。

ILCに関する審議を政府から依頼されていた日本学術会議は、昨年12月19日に所見を取りまとめ、文部科学省に回答しました。

学術会議が所見を回答

日本学術会議においては、ILCの学術的意義が評価さ

れた一方で、国際的な経費分担や推進体制についての課題が指摘されました。一見すると、ILC計画について否定的ともとれる内容ですが、この内容は、ILC推進団体が提案している「次のステップとしての正式な国際交渉」を否定したものではありません。指摘された課題を解決するためにも、日本政府がILCの実現に向けた国際協議の実施について、前向きな立場を早期に示すことが必要です。

【評価している点】

ILCの学術的意義は極めて重要で、国際的な素粒子物理学のコミュニケーションにおいて合意が得られている。高度研究人材が世界に輩出される拠点として発展する意義は非常に大きい。国際共同研究に日本が貢献する必要性は高い。今後の素粒子物理学が進む方向性に示唆を与える可能性がある。

【課題としている点】
経費が格段に大きく長期に渡る超大型計画であり、学

術界全体の理解や支持が必要である

技術的・経済的波及効果については、ILCの誘発効果は現状では不透明な部分がある。環境への影響など地域住民との対話が肝要である

◆現時点では、資金面での適正な国際経費分担や、建設に必要な人的資源の見通しが明らかでない

◆現状の計画内容や準備状況から判断して日本誘致を支持するには至らない。政府における判断は慎重になされるべきである

ILCは政府判断の段階へ

文部科学省への回答が行われたことを受け、ILCはいよいよ政府判断の段階に移行します。

市はこれまで、ILCの早期実現に向け、関係機関と共に政府へ要望を行い、6万人署名運動などを通じて誘致機運を醸成してきました。引き続き、関係機関と綿密に連携して、政府の意思表示に向けて全力で取り組んでいきます。

ILCサポーターズ全国署名数30万人超える！

ILCサポーターズは、「ILC」の誘致を実現するため、各界の有志によって昨年4月に結成された応援組織です。映画監督である押井守氏の呼び掛けによって、現在50人を超える各界の有志がプロジェクトを支援しています。

全国で30万人を目標に取り組んでいた署名運動は、本市の6万人署名と合わせて305,091人（11/16現在サポーターズ事務局集計）となり、目標を達成しました。

また、今般サポーターズのPR動画も公開され、各界の有志からの応援メッセージが発信されています。押井監督はサポーターズ運動について「僕の生涯で最初で最後の社会的運動」と語り、ILCで「間違いなく世の中は変わる」と強調しています。



ILCサポーターズ公式HP内にあるPR動画ページ

QRコードはこちら→

